インタビュー

クラウド時代の新サービス 創出に向け、オープンラボ などの新規施策を積極展開

「あらゆるものを安心・安全につなぐ」を基軸に、新ビジネスモデル/新サービスの創出に注力するNTT コミュニケーションズの先端IPアーキテクチャセンタ(以下、IAC)。オープンラボなど新規施策の展開を含め、積極的なR&D活動を展開するIACの取組みについて、高間徹所長にうかがった。

// ートナーとのコラボによる オープンラボ・プログラムを展開

昨年は、「お客様が笑顔になっちゃう」を実現します!! というミッション・ビジョンに基づく重点施として、3つの柱(高付加価値サービスの創発、知恵や知識の集積所としての事業のイノベーション、先見力や創造力に長けた人財の育成)の取組みを展開されるということでしたが、1年を経た現在の状況からお聞かせください。

高間 IACの所長として、まずミッション・ビジョンを掲げて目指す方向性を明確にし、それに基づく戦略を策定し、マーケティング的視点から作成した技術ビジョン、開発ポートフォリオに基づくインキュベーション・プロジェクトを進めてきました。

お客様に笑顔になっていただくためには、お客様にバリューを感じていただく必要があります。それを念頭に目標を明確にし、R&D活動、そしてサービス創造活動を推進してまいりました。

3つの柱に加え、「オープンラボ」

という新しい取組みも行っています。オープンラボの詳細は後続の各論でご紹介しますが、これまでNTTグループの研究開発・サービス創造の多くは、自社内で技術をリービスのアイデアを考え、それを具現化していくというものでした。これに対し"オープンラボ"は、ベースを考えるでした。では、ベートナー様とがです。弊社のプラットフォームやインフラを6カ月間使っていただき、パートナー様と共同で新しいビジネスモデルに創出していくという取組みです。

---- オープンラボは何時から開始され、何社が参加されていますか。

高間 2010年5月に開設し、これまでに14社が参加しています。それ以外にも沢山のお申し込みをいただいており、おかげさまで盛況です。日本だけでなく米国シリコンバレーの R & D 子 会 社 「 M C L (Multimedia Communications Laboratories)」もオープンラボの営みに参加しており、日本のインフ



NTTコミュニケーションズ(株) 先端IPアーキテクチャセンタ 所長 **高間 徹**氏

ラだけでなくアメリカのインフラも 含めて利用できる環境を提供してい ます。

本 格的クラウド時代に向けた仮想 ネットワーク技術などに注力

----最近、注力されている技術分野としてどんなものがありますか。

高間 弊社は、あらゆるものを安心・安全につなぐことを目指していますので、それに則ったR&D活動・サービス創造活動を推進しています。特に最近注力しているテーマは、本格的なクラウド時代の到来に向けた技術開発で、その一つが仮想ネットワーク技術です。

これは、物理ネットワークに依存することなく、仮想的な閉域網をオンデマンドで構築することができる技術で、物理ネットワークが弊社のネットワークでも、お客様のLANでも、他社のネットワークでも、そして、デバイスが携帯電話やスマートフォン、タブレットPCやパソコ

ン、テレビでも、仮想ネットワーク という技術でつなぎます。

また、インターネットでのDDoS (分散型サービス拒否) 攻撃などの 検出や防御、IPネットワークの運 用を効率化する「統合ネットワーク 運用ソリューション」を開発してい ます。

DDoS攻撃は、標的に大量のトラフィックを集中させ、うまく通じないようにさせるというもので、IACでは、平常時のトラフィックと異常時のトラフィックを識別する技術を用いる事により、ただ単にトラフィックが上がっているだけなのか、本当にアタック(攻撃)なのかを識別し、アタックを検知した場合には、アタックを検知した場合には、アタックをはいうソリューションを提供しています。実際に国外からのDDoS攻撃があった際にも統合ネットワーク運用ソリューションは高い効果を上げています。

さらに、クラウドサービスにおいて、お客様への説明責任を果たすアカウンタビリティや、情報の保管場所に関するデータ・トレーサビリティ、また、多様な端末に対応したコンテンツの最適化技術や配信の高度化により、様々な要素をつなぐサービス開発を推進しています。

適 材適所の柔軟なプロジェクト 編成施策と、活性化施策も展開

──お客様は笑顔になられましたでし ょうか。

高間 先ほどのDDoS攻撃を防御するソリューションをはじめ、IACの

技術開発・サービス創造は、お客様に大変喜ばれています。

また、さりューを を様がバ質顔にただくるイン IACにおけるコント キュベェシート のな体制構築や活

性化施策にも取り組んでいます。

例えば、優先順位を明確にした適 切なリソース配置が行なえるよう、 各事業部とのプロジェクト連携を行 い、「マイルストーン会議」と呼ぶ 会議を定期的に開催しています。

また、IAC内部では、組織をまたがり、柔軟かつ適材適所で自由なプロジェクトの立ち上げやチームを編成することを可能にしています。価値があると認められれば、たとえ管理職でなくてもリーダーとしてプロジェクトを興すことができます。

さらに活性化施策として、若い社 員が取り組んでいる研究開発トピッ クを他のIACメンバーに共有し、 意見をもらえる場として、「IACセ ミナー」を2週間に1度の頻度で開 催しています。

一方、人財育成の観点では、 NTT Comの寺子屋としてISPのステータスを持つ検証網と検証設備を IAC内に設け、入社5年目までの若手が、ISPの運用をいかに効率的に行えるか、知恵を出し合いながら実際に運用し、技術の習得にも励ん



IAC セミナーの模様

でいます。この検証ネットワークは、 オープンラボでも使われています。

現在推進している施策の主なアイディアは、私も参加する年間50回程度行なうグループディスカッションから生まれたものです。どんな優れた人の知見よりも集合知が勝ると思っているので、ディスカッションを通して社員が持っているものの見える化を行ない、それをビジョンや具体的な技術のロードマップにし、先ほど申し上げたような組織横断のプロジェクトで具現化しています。

──最後に、若手研究者へのメッセー ジをお願い致します。

高間 とにかくチャレンジをして欲 しいですね。それにより道は拓けま す。オープンラボはIACにとって 初めての試みで、チャレンジだった わけです。自分自身で積極的に体験 し、道を切り拓くということを、皆 さんにやって欲しいですね。

本日は有難うございました。

(聞き手・構成:編集長 河西義人)